マーケットデイリー
SMAM
（No.3,217）
〈マーケットレポートNo.6,410〉
2019年1月30日　情報提供資料
資産形成なら SMAM

今日のトピック 1バレル50ドル台を回復した原油価格（2019年1月）

主要産油国の減産が続く見通し

ポイント1 1バレル50ドル台を回復

景気不透明感に対する過剰反応は一巡

■ 2018年末から2019年初めにかけて、米中貿易摩擦を背景とした世界景気の失速懸念から世界的に株安と原油安が進行し、北米の代表的な原油価格であるWTI先物価格は一時1バレル50ドルを割り込みました。ただ、景気の不透明感を過剰に織り込んだ可能性もあり、株式市場、原油価格ともに次第に落ち着きを取り戻しつつあります。

【WTI原油価格と北米のリグ稼働基数】

（注）データは原油価格が2017年1月6日～2019年1月29日、リグ稼働基数が2017年1月6日～2019年1月25日。ともに週次データ。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 OPECは協調減産を継続

原油価格の押し上げを狙う

■ 石油輸出国機構（OPEC）加盟国にOPEC非加盟の主要産油国を合わせた「OPECプラス」は、昨年12月初旬に開催された会合で、日量120万バレル規模の減産を実施することで合意しました。これは、原油価格の押し上げを狙ったもので、本年1月から実施され、当初は6カ月間維持される予定です。OPEC加盟国並びにOPEC非加盟国は、1月18日に国別の具体的な減産目標を公表しました。

【世界の原油需給見通し】

	2017年	2018年	2019年
世界需要	97.3	98.8	100.1
供給	96.4	98.9	100.1
非OPEC	64.4	67.0	69.3
OPEC	32.0	31.9	30.9
需給バランス	▲ 0.9	0.1	0.0

（注1）需給バランス＝供給－需要。▲は需要超過。
（注2）単位は百万バレル（日量）。
（注3）2017年は実績。2018年はOPECによる推定、2019年はOPECによる予想。ただし、2019年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。
（注4）四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。
（出所）「OPEC月報」のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 OPEC等主要産油国の減産状況を確認する必要があろう

■ OPEC月報の2019年1月号によれば、18年の原油需要量は全世界推計で日量9,878万バレル、前年比1.5%増、19年は世界全体で日量1億バレル、同1.3%増と予想されています。19年は中国やインドをけん引役に世界的に需要が緩やかに増加する見通しです。一方、18年の原油供給量は推計で日量9,890万バレルと需要量を若干上回りました。

■ OPEC等主要産油国は引き続き、減産を続ける見通しです。サウジアラビアは1月以降に日量32万バレルの減産を目標とするなど、着実な減産が期待されます。ロシアも同23万バレルの削減目標を打ち出しています。こうした国々の減産努力が維持されれば、需給バランスは改善に向かい、原油価格も安定すると期待されます。

ここもチェック！
2019年　1月18日　2019年の米国株式市場の見通し
2018年12月11日　OPEC、大規模『減産』を実施へ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。